

光市医師会報

平成8年11月号

No. 289



「東離客」の流れ

光市医師会

〈会員広場〉

第58回日本臨床外科学会へ出掛けて

富 恵 哲

京都で行われた臨外の学会へ出掛けて見た。例年、日曜日を挟んで行われる学会も他の学会同様、平日に行われる様になった。しかも月、火、水の三日間で月曜日の夕方に評議委員会が行われる。臨外だけは開業医のために日曜日に行われて居たのにと、一寸、残念。

月曜日の1日だけの出席では勿体ないので日曜日から出掛けて、お寺めぐりを企てて見た。京都の義兄から観光パンフレットを送って貰った所、わざわざ新聞の切り抜きを同封してある。醍醐寺の秘宝展があるとの事。洛南の醍醐寺を中心としてのお寺めぐりをする事とした。久振りなので家内も同伴。

朝一番の新幹線で京都へ直行。食堂車で



萬 福 禪 寺

朝食。朝からピールの小瓶を一本。小原庄助さんの気分である。お陰で京都までぐっすり眠り、日頃の疲れも消失。

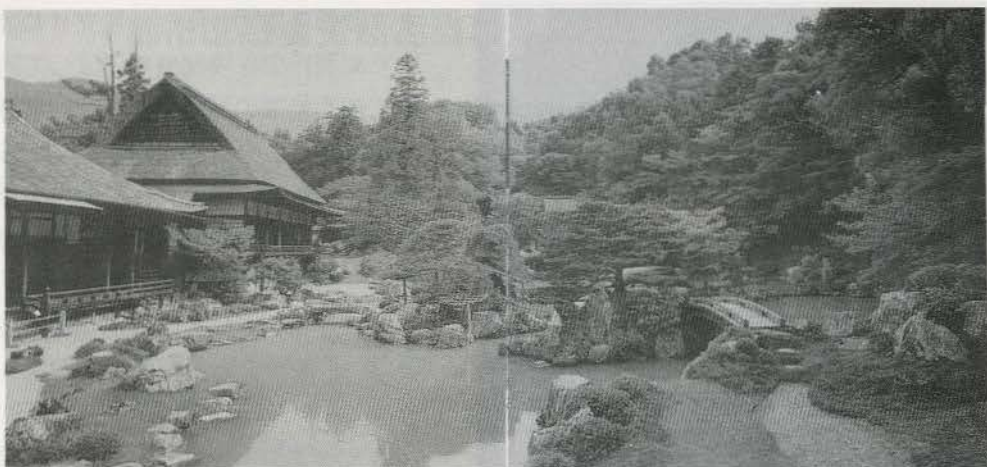
京都駅前のホテルへ、荷物を置き、観光タクシーを呼んで貰い出発。運転手さんに醍醐寺の秘宝展の話をし、昼食に普茶料理の手配をして貰う。

山科の勤修寺を訪れる。周囲の山を借景にした庭園のすばらしい事。“氷室の池”を中心として山を取り込んで造園されている。時期外れなので訪れる人は少く、その静けさを満喫する。樹齢750年の「ハイビヤクシン」が静けさを増してくれる。

近くの佛光院を訪れる。養父の乱行で、若くして両方の上肢を切り落され、口に筆をくわえて字を書いた順教尼の悲話を想い起こす。小さい時に確か読んだと家内に話すものの彼女の方はぴんと来ない。努力をすれば何事も上達するとの教訓を習った事があった。此処の庭も又、すばらしい。庭の片隅のもうせんを敷いた縁台に腰を下し、お茶を飲む。静寂そのもの。日頃の喧しさが嘘の様である。

運転手さんに誘われて早い昼食を摂る事にする。「万福寺の普茶料理より白雲庵のそれがおいしいので頼んで置きました」との事で出掛ける。万福寺のまん前、早速大部屋に通され飯台の前に座らされる。台の上に置かれた普茶料理の由来書を読み乍ら、御馳走を待つ事にする。中国式の精進料理

醍醐寺三寶院とその庭園



で、皿毎に中国名が附いている。澄子（スメ：前汁）、雲片（ウンペン：吉野煮）、行堂（ヒンタン：季節御飯）等々。二汁七菜と云うのか九品を並べている。禅門では儀式、法要などの行事が終わった後、労を犒う為に出された感謝のお茶が普茶であると…。

由来を読み乍ら食べると味も又異って来る。そう云えば、飯台（ハンダイ）と元う言葉から「おぼんだい」が関西で惣菜の事を指すのかと納得した次第。食事が終わって万福寺へ。宇治のお茶の起源は此処の坊さんに依るとか？。境内でお茶の接待があるのも、お茶どころ宇治なればこそであろう。七福神の布袋尊を祭ってある事も意外な発見であった。

ついで、醍醐寺へ出掛ける。門前の桜並木のすばらしい事。花見時には大変であろう。早速家内は寺務所で納経帳へ朱印を押して貰っている。三寶院の池の配置がすばらしい。廻廊に腰を下して静かに池を眺めて居る外人の姿も此処では珍しくない。五大カさんと云われる力餅競べが有名な行事とか？。三宝に戴せた大きな餅をどれだ

け運べるかとの力自慢をテレビで見た事がある。あゝ此処かと、又、感興一入。

随心院を訪れる、境内に小野小町の彩色の歌碑が建っている。夜な夜な、小町の所へ通って来た深草少将の物語を想い起させる。小野小町が顔を洗った井戸へ案内してくれる。「水が有れば、私も洗うのに」と家内が言っている。「今更」と想いつゝも、何時までも美しくあり度い女心を映す井戸であろうか？。小野小町の物語は、実際に来て見ると、さもありなんと云う感がある。恋物語を悲恋として美化し残して居る往時の人のロマンチズムに、人間味の豊かさを感じる。

段々夕方となり、予定の時間をオーバーするが欲ばって岩屋寺へ行く。曹洞宗、永平寺の末寺であったとか。四十七士が祀ってある。手を合せて、隣りの大石神社にお詣りする。中年の女性の説明にうなずき乍ら見て廻る。もう4時過ぎ、さすがのお寺廻りも明日の学会を考えて終了する。

ホテルの地下で義兄夫婦と落合い夕食。その昔、祇園で食べた「しゃぶしゃぶ」を



思い出して、出発時に予約した店。期待をして居なかったが、食べて見るとすばらしい。特別なたれが肉を幾らでも食べさせてくれる。義兄夫婦もうまいうまいの連発。近江肉がうまいのか、たれが良いのか？。京都での夕食に満足。

2日目の学会は、開会式からと7時に起床、出掛ける。会場の京都国際会議場は池を埋めた所とか、市の北、辺鄙な所にある。立派な建物で、メインホールその他、十数ヶ所の小ホールがあり、別々に、各部門の発表、討論が行われている。演題が二千以上あったとか。こんなホールでなければ開催できないであろう。

プログラムの中から興味のあるものをと考えて、ワークショップ「創傷管理ドレッシングの基礎と臨床」のホールへ入ってみる。仲々面白い。外科医にとって創傷の管理程難しいものはない。如何に乾燥させて治療傾向を作るかと苦労したが、最近の考え方は、種々の材料のドレッシングで被覆して放置する様に発表している。毎日包交

をする愚を説明、併し、包交せねば点数にならぬ現行の保険制度をこぼして居た。濕潤に依る創傷の治癒機転を面白く拝聴。3時間はあっと云う間に過ぎる。終ると間もなくランチョンセミナー。弁当を食べ終り、「肺癌の化学療法のセミナー」を聞く。肺切と併用する化学療養の量、期間、その五生率が発表されている。化学療法の併用とQOLを考えたのは私一人であったらうか？。

教育講演の「外科医に必要な解剖」は、久振りに神経のスライド。昔、盛んにメスを奮った頃に思いを馳せた次第。

休む間もなく、2時から5時までの「癌の家族発生の現況」を聞く。色々な癌の家系を集め家族発生を検討している。甲状腺癌、乳癌、食道癌、胃癌、大腸癌の家族発生に就いて発表があり、フロアーから発言、活発な討論が展開されている。一寸、気になった事は、「小学生の子供の遺伝子から将来癌発生が考えられる」の言葉であり、「此の様な子供の将来を考え、小さい時に手を加えるのは人権の侵害ではないか」との発言であった。癌制圧に遺伝子レベルを問題にしている事に考えさせられた。雨が降り始めたので評議委員会をさぼって駅へ行く。

最後に京都駅で名物の京の漬物を見る。壬生菜（ミブナ）、日野菜、赤かぶ千枚漬、大根のあっさり漬、なすびのからし漬、等々、明日の酒の肴、お茶漬に思いを馳せて購う。

僅かか二日間、仏像を眺めたり、勉強に精を出したり、うまいもの食ったりの充実した学会の出席であった。

「郡市医師会労務担当理事協議会」の報告

担当理事 松村 壽太郎

日時・平成8年10月24日(休)

場所・県医師会館大会議室

今回は「労働時間短縮問題について」の講演と、この問題に関する質疑応答が主な内容でした。

(1) 山口労働基準局監督課時短促進指導官、辻本正澄氏の講演内容：

昭和63年4月1日に施行された改正労働基準法により、1週間の法定労働時間は48時間から、段階的に短縮されてきており、平成6年4月1日からは、原則として40時間となりました。しかし、一定の規模と業種については、現在、猶予措置が講じられており、週44時間となっておりますが、その期限は平成9年3月31日までとされています。

保健衛生業（病院、医院含）に関しては、現在猶予措置が講じられていますが「規模10人以上 300人以下の事業場」については、平成9年4月1日からは、所定労働時間が40時間以下になるよう対応する必要があります。しかし、「規模9人以下の事業場」については、別途法定労働時間が定められていて、現在週46時間で、今のところ、この規模での法改正はないようで、しばらくは週46時間以下であればよいようです。

今年4月に行なわれた県内事業場の労働時間アンケートの結果報告をみると、保健衛生業に関しては、360ヶ所の事業場からの回答あり、すでに週労働時間40時間を達成している事業場は、51.9%を占め、他の事業場に比べ良好である（全事業場の達成率33

.9%）。「規模9人以下の保健衛生業」においては、222ヶ所から回答があり、その53%が週労働時間40時間以下であり、一方、週労働時間46～48時間の所が5ヶ所あったと報告された。

続いて、労働時間の短縮（時短）をどの様に進めていくかについての方法に関する説明があり、以下4つの方法の説明がなされた。1) 完全週休2日制とする方法。2) 週休1日制で半日就労日を活用する方法。3) 1年単位の変形労働時間制を採用する方法。4) 1か月単位の変形労働時間制を採用する方法。これらの具体的な方法に関する説明書は、医師会事務局に備えておきますので必要な場合ご利用下さい。労働基準局には、時短に関するサービス業務が設置しており、どうやろうかと検討したい事業場は利用していただきたい。

(2) 時短に関する質疑応答について：詳細で具体的な質問なども種々なされましたが、後日県医師会報にも要旨が報告なされる様ですので省略します。



休日診療所に関する郡市へ提出したアンケートの一覧表

		熊毛郡	厚狭郡	下関市	宇部市
設備面について	1.	4町	山陽町	市	市
	2.	行政(集会所)	山陽中央病院 内	医師会の敷地	保健センター併設
	3.		14m ²	314m ²	409.9m ²
	4.	分包器、酸素、EKG、	吸引、酸素、ライフスコープ、血圧計	ファックス、分包器吸引	分包器、心電計、吸引酸素、歯科ユニット
スタッフについて	1.	1人	1人(病院医師兼務)	2人	3人
		内、外、小、婦人科	23,000、病院32,000	内、小	内、小、歯、89,700
		代理を派遣	当番制	今までなし	医師会で対応
		全員の輪番	病院と診療所で担当	出務調整している	医師会で対応
		なし	あり、病院内より	あり、公的病院より	あり、山大より
	2.	いない	いる、超過勤務	いる、11,500	いない
	3.	いない	いる、病院の給与並	いる、18,300	いる、39,900
	4.	1人	1人6,400	3人、11,500、28,300	2人、10,900
	5.	1人	1人9,000業務委託	1人、7,300、18,800	2人、6,600
診療所の開設時間	昼間	9.00~17.00	8.30~17.00		9.00~17.00
	夜間	18.00~22.00	17.00~8.30	19.00~7.00	19.00~22.00
二次病院は		周東病院、大和病院	山陽中央病院	公的4病院	13病院
三次病院は		国立岩国病院	山大付属病院		山大付属病院
時間帯の対処方法		18.00~22.00は自宅診療所 22.00~8.00は平生クリニックを利用	病院or診療所 消防署に連絡する		0.00~9.00輪番制 22.00~24.00 : 検討中
開設して	良い点	地区に喜ばれている	住民の安心感 救急隊の迅速化	出務以外は拘束されない	小児科の開設
	悪い点	診療費が高い(夜間診療費になる)	赤字経営 患者の甘えがある		19.00~22.00は在宅診療なので患者に不便
運営上の問題点		収支の不安定	経営の収支 患者の甘えがある		レントゲン不備のため外科系は各病院で診療している
その他		現地の視察を望む			

H. 8. 9. 11

山口市	岩国市	防府市	徳山市	下松市
市	医師会	市	2市1町	市
市の直営	医師会病院 内	保健センター併設	行政（慶万町）	行政の施設
293.75㎡	450㎡	322.96㎡	414.114㎡	450㎡
分包器、酸素、吸引 FAX	一式及び、腹部エコー、 麻酔器、オートクレーブ	分包器、酸素	分包器、酸素、吸引、心電図 FAX、自動血球係数装置	
2人	4人	3人	2人or3人87,700	1人87,600
内、外、小、歯、45,000	外、小、歯、別紙	内、小、歯、81,000	内、外、小	内、
交替要員を待機	70才未満の内、外、小	お互いに連絡	他の医師会で対処	下松記念、日立病院
諾否の調査をする	他の科は在宅当番	医師会で調整	70才未満のこと	理事会で決定
あり、勤務医	あり、山大より	なし	あり、市内の勤務医	なし
いる、14,500	いる、時間給	いない	いる、26,500	いない
いる、18,000	いる、薬剤師会より	いる、29,000	いる、31,050	いる、30,940
3人（土、日）14,000		2人、11,500	3人or4人14,800	2人、14,400
2人（土、日）12,000	センター職員	2人、9,500	1人or2人11,400	1人、13,050
9.00～13.00	9.00～20.00	8.30～17.00	9.00～17.00	9.00～17.00
19.00～22.00	19.00～8.00		19.00～23.00	
日赤、済生会、小野第一（輪番）	医師会病院	6病院	周南地域の輪番	8病院
県立中央病院	国立岩国病院	県立中央病院	国立岩国病院、県立中央病院	2病院
22.00以降は二次病 院にて対応	自己の医療機関 救急センターが対応	二次病院で対処	23.00迄は休日診療所 以降は救急対応可能 診療所	救急端末設置医院に 協力依頼している
場所が分かっている 市民が安心している	地域は急病、怪我に 安心している	休日の初期、救急医 療が確保できた	市民に判りやすい	患者が病院を探さな くてよい
昼間の診療と錯覚する 担当医が変わるので統一にくい		市に負担、市民外も 診療してしまう	担当医が複数になり 診療方針で困る	診療所まで来なけれ ばならない
出務医が当番日を忘 れる事がある	赤字運営 交付金は次年度にな る	施設の老朽化	赤字運営、4328万円 の赤字	小児科医が少ない 薬剤の選定について
投票について主治医 の意見が分かれる	公的、公営が良い 事務員は常勤がよい		眼科、耳鼻科の要望 あり	

10月定例理事会

日時：10月9日(水) 午後7時30分～

場所：医師会事務局

出席者：近藤、前田、赤崎、藤原、光武、
梅田、松村、吉村

議題：

1) 都市保険担当理事協議会の報告
(光武理事)

2) 「災害体験ツアー」の収支報告
(梅田理事)

収支報告理事会了承

3) 4半期の会計報告 (前田副会長)
会計報告理事会了承

4) 衆議院選挙の取り組みについて
(近藤会長)

5) 休日診療アンケートの分析
(近藤会長・梅田理事)

6) その他

①忘年会の件——12月19日の予定

②光市国保人間ドックの件(松村理事)

話し合いの結果料金は変更せず判断料
で調整する。



10月度例会

日時：10月22日(火) 午後7時

場所：光商工会館

出席者：21名

[1] 学術講演会

「肝臓と栄養」

講師 大和総合病院 安永 満先生

[2] その他



光市医師会と光市との協議会

日時：10月18日(金) 午後1時～

場所：光市役所

出席者：

(光市) 重岡靖彦福祉保健部長

松岡 博保健センター所長

(光市医師会)

近藤会長、前田副会長、赤崎理事

河村理事、梅田理事、吉村理事

協議事項

休日診療所の設置についての意見交換

臨時理事会

日時：例会終了後

場所：医師会事務局

出席者：近藤、前田、光武、松村

河村、吉村

議題：周南三市役員会提出の平成9年度予
防接種報酬・健診等出務要望の検討

光三師会旅行（松茸狩り）

日時：10月27日(日)

場所：広島県黒瀬町 観光松茸園「台」



総勢24名の旅であった。目的地の黒瀬町まで2時間と少しの行程である。到着して驚いたのは目指す松茸山は山深い所かと思ったが、意外にも車の通行の多い道路のすぐそばであった。

松茸狩りとは言ってみたものの、店頭での値段を見れば、そう簡単にとれる筈はないと思っていたが、やはり予想通り収穫は中村塚先生と松村先生の2本であった。むしろ日頃の運動不足の解消と思い、山腹を棒でつつきながら徘徊した。

松茸はマツタケ科のキノコで、赤松林に生えるが、直接松に寄生するキノコではないと言われ、土質がおおいに関係しているようである。赤松の樹令15～30年ぐらいの間のものがよく発生し、角岩、硬砂岩、石英粗、岩面岩などの赤松林に多くでると言われている。

平安朝の中期頃まではキノコについての知識はあまりなかったようであるが、平安朝以後は茸狩りといえば主として松茸狩りのことであった。元禄時代には松茸は本邦のキノコの第1と言われるようになった。



山に入っている時は案内人に連れて行ってもらったが、下山の時は、各自散々伍々であったので、道のないのには閉口し、皆悪戦苦闘していた。無断侵入者を防ぐためかなと変にかんぐったりしてみた。

収穫は予想通り(?)であったが、昼食は格別であった。広場にテントを張って、その下で松茸ごはん、焼き松茸、松茸のはいったスキヤキと、松茸さんまいであった。山中の適当な運動後という事も手伝ってか、キノコ料理に舌鼓をうち堪能した。

近藤会長が事前に現地に行かれたと聞き1日の楽しさは、周到に計画されたお陰と改めて感心した。

帰りに用意されていた松茸もすぐ売り切れた。それぞれみやげをかかえて帰路につく。終日好天であった。（吉村）

勉強会

心電図研究会 (第100回)

光市・下松医師会合同

日時: 10月11日(金) 午後7時30分～

場所: 光商工会館

講師: 河野隆任先生

症例: 3例

レントゲン勉強会

日時: 10月1日(火) 午後7時～

場所: 医師会事務局

講師: 徳山中央病院 岡本安定先生

平成8年度従業員永年勤続者

(各医療機関で表彰)

20年…2名 15年…4名 10年…8名

5年…6名 3年…25名

ⅢⅢ あとがき ⅢⅢ

北国の方からは、雪の便りが聞えて来る季節になりました。

市内で菊花展をみかけましたので表紙の写真に使いました。専門家が丹精こめて作られた作品なのでしょうが、素人にはなかなか作品の良さがわかりませんが、流れるような竜の美しさを感じました。

11月号の発行がおそくなり申し分けありません。(吉村)



下松・光医歯会合同ゴルフコンペ

平成8年10月6日 於 周南カントリークラブ

優勝 団体戦 光(光371、下松421:

各チーム上位5名のネットの和)

個人戦 光武先生

氏名	out	in	gross	h.c.	net	順位
光 武 <small>(光)</small>	44	42	86	14	72	優勝
兼 清 <small>(光)</small>	44	44	88	16	72	準優勝
森 本 <small>(光)</small>	44	39	83	9	74	3位
岡 田 <small>(一)</small>	48	63	111	36	75	4位
前 田 <small>(光)</small>	46	46	92	16	76	5位
守 田 <small>(光)</small>	47	45	92	15	77	6位
西 辻 <small>(下)</small>	46	43	89	8	81	7位
諏 訪 <small>(光)</small>	48	48	96	15	81	8位
野見山 <small>正(下)</small>	45	45	90	8	82	9位
梶 原 <small>功(下)</small>	49	46	95	11	84	10位
藤 本 <small>(光)</small>	52	54	106	22	84	11位
市 原 <small>(下)</small>	51	49	100	14	86	12位
松 村 <small>(光)</small>	54	57	111	24	87	13位
明 石 <small>(下)</small>	51	49	100	12	88	14位
水 津 <small>(下)</small>	55	52	107	19	88	15位
藤 原 <small>(下)</small>	52	56	108	19	89	16位
武 内 <small>(下)</small>	58	69	127	36	91	17位
野見山 <small>弘(下)</small>	50	56	106	14	92	18位
道 田 <small>(一)</small>	65	64	129	36	93	19位
徳 (一)	59	71	130	36	94	20位
秀 浦 <small>(下)</small>	53	56	109	14	95	21位
梶 原 <small>誠(下)</small>	68	57	125	27	98	22位

発行所 光市医師会
TEL 0833 72-2234

発行者 近藤龍一

編集者 広報担当

印刷所 光市光井一丁目15番20号
中村印刷株式会社